あなたの街のドクターがアドバイス

新型コロナ肺炎に伴う乳癌診療トリアージとは

新型コロナウイルスの流行で、傷病者の治療優先度が見直されました

「トリアージ」という言葉をご存じでしょうか。トリアージとは、大規模災害などで多数の傷病者が発生した際の救命の順序を決めるための手段で、患者の重症度に基づいて治療の優先度を決めることを意味します。欧米では多数の患者が、新型コロナ感染のために病院に搬送されて通常の診療に影響がでており、既存の疾患の診療においてトリアージが必要な状況になりました。乳癌（がん）診療においても日本の状況に合わせたトリアージの指針がつくられました。

まず、診療の緊急度を、高優先度（通常の対応を要する）、中優先度（治療の遅れが予後に影響する可能性がある）、低優先度（パンデミック中は延期可能）と3段階にわけて、さまざまな診療行為に対しその優先度を記載しています。例えば、乳癌を強く疑う場合の診断や、高度の乳腺炎の治療などは高優先度となっています。しかし、乳癌をそれほど強く疑っていない場合の診断、比較的早期の乳癌と診断された場合の手術は中優先度となり、薬物療法を先に行い手術を延期するということも可能とされています。また、低優先度の診療行為には、乳がん検診、乳癌術後の経過観察、良性病変の生検などが入っています。大まかな流れでは、乳癌の確定診断は急ぎ、その後は病態に応じて、薬物療法をしながら手術の時期をさぐる、また、乳癌検診などは感染流行が落ち着いてからということになります。ただ、新型コロナ肺炎の流行状態は時期や地域によって異なり、医療資源のひっ迫度により状況が大きく変わってきます。

現在、北海道内の感染状況は落ち着いており、通常の診療が行われていますが、大きな流行の波がくるといつこの診療トリアージが必要になるとも限りません。今のところ、感染予防対策をしながらの通常の乳腺診療は行われています。当たり前ですが、乳癌の診断・治療の遅れはあってはならないことと思います。

今回のドクターは

大通り乳腺・甲状腺クリニック
院長
亀嶋 秀和 先生

1992年札幌医科大学卒業。同大第一外科、がん研有明病院、滝川市立病院、東札幌病院などの勤務を経て2017年4月開院。日本乳癌学会認定乳腺専門医、日本外科学会認定外科専門医